

千葉市議会議員

いわさき 明子
市民の め!



新聞

発行：
市民ネットワーク
ちば わかば事務所
043-284-2339
2018. 11 月

目指せ！エネルギーの地産地消

「ソーラーシェアリング」をご存知でしょうか？畑や田んぼの上にソーラーパネルを設置し、農業と太陽光発電を同時に行う仕組みのことです。このシステム発祥の地である、市原市に視察に行ってきました。パネルのせいで、作物に日光があたらぬのではと心配でしたが、パネル1枚の大きさは120×60cm程度で、設置間隔も空いているため、日照は確保されていました。また、高さは3mほどで、トラクターなどの機械を乗り入れることもできます。システムを導入した方からは「適度な日陰ができ農作業が楽になった」という声を聞きました。システムの生みの親である長島彬さんは「強すぎる太陽光は植物の生育に良くない。太陽光パネル下とパネルのない畑に同じように作物を植えると、パネル下の方が良く育つと実験で確認している」とお話をされました。



農家は昔から、薪や炭などエネルギーを生み出す役割を担っていました。それが今や、ソーラーパネルで電気を生み出す時代になったのです。私たちは「大きな発電所から、遠くまで電気を届ける」ことが当たり前だと思いがちですが、このような小さな発電所を地域にたくさんつくり、エネルギーの地産地消ができる社会へとシフトしていくべきだと感じました。(岩崎明子)